

# 台湾との交流 今後も

## 戸田中央医科専門校生10人が研修

台湾・高雄市の医療介護専門学校「樹人医護管理専科学校」(シユ・ゼン・医療看護ジュニアカレッジ)の生徒10人が1～9日、戸田市本町で戸田中央医科グループ(中村隆俊会長)が運営する戸田中央看護専門学校(中村毅校長)で、施設見学や研修を受けた。

同専科学校には看護や作業療法のほか、日本語、歯科技工やパソコン情報管理、美容まで12学科あり、生徒総数は7400人のマンモス

校。今回は看護学科の生徒たちが来日し、採血や注射などの演習や授業に参加。戸田中央総合病院や老健施設など4施設も見学した。

看護師としての専門教育は台湾の方が2年長いにもかかわらず、中学校を卒業後に教育を受けた期間が日本より1年足りないことなどを理由に、日本では国家試験の受験資格がないという。林さんは「これを改善して、台湾人看護師を受け入れてほしい」と訴える。

同専科学校の創始者、林朝家(リン・チャオチャイ)さんと、戸田中央医科グループの中村隆俊会長が40年来の友人であることから、今回の研修が実現した。同グループが台湾研修生を受け入れるのは20年ぶり。今後もうこうした短期研修を相互交流として続けていく方針という。

9日午後には、同専門学校でさよならパーティーが開かれ、台湾の学生たちは台湾の獅子舞やヒップホップダンスを披露。「共に学び、友好を築きましょ」と締めくくった。台湾の学生の呉馥宇(ウ・フーユ)さん(19)は「戸田の人々は礼儀正しく、町はとても清潔。戸田の花火大会を見た。素晴らしいかった。戸田、日本が大好き」と笑顔を見せた。

引率の看護学科の教師、陳純真さん(57)は「日本の看護のレベルは高く、設備や環境も整っている。看護師たちは真面目で、その仕事ぶりから見てその報酬はもっと高くならなければならない」と話す。

日台友好の気持ちを深めたさよならパーティーで、前列がの台湾研修生

戸田市の戸田中央看護専門学校

